

これからの日の出町の学校教育

～次期教育振興基本計画の策定の動向と
日の出町の学校教育の現状から～

令和4年11月24日
日の出町教育委員会
指導室長 平崎一美
指導主事 長保雄一

予測困難な時代(VUCAの時代)の到来

○新型コロナウイルス感染症拡大

○ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化

VUCA : 「V_{olatility} (変動性)」 「U_{ncertainty} (不確実性)」
「C_{omplexity} (複雑性)」 「A_{mbiguity} (曖昧性)」

様々な課題が浮き彫りになり、学校・教育の役割、子供の学びが変容

次期教育振興基本計画のコンセプト

- 多様な個人のウェルビーイングの実現と共生社会の実現・地域コミュニティの再構築に向けて、個人と社会のウェルビーイングの実現をつなぐ学校や社会教育施設の役割・機能を重視
- 少子化・人口減少の中で、持続可能な社会の発展を生み出していく人材を育むことを重視
- 将来の社会基盤に変化をもたらすデジタルトランスフォーメーションを教育・学習全体の中に組み込む。

これらを通じた価値創造により、人間中心社会としての Society 5.0 の実現を目指す。

教育をめぐる現状と課題

新型コロナウイルス感染症の拡大
やロシアによるウクライナ侵略によ
り、平穏な日常が脅かされ、基本的
な価値が大きく揺らぐ時代

教育の普遍的な使命の再確認

○教育基本法の重要性

- ・「たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願う。」

教育基本法（前文）

○教育基本法は、予測が困難な時代においても変わることのない立ち返るべき教育の「不易」(教育の理念・目的・目標)

- ・「人格の完成」「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」

同法第1条(教育の目的)

- ・ ①知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己実現を目指す自立した個人の育成
- ②公共の精神を尊び、国家・社会の形成に主体的に参画する国民の育成
- ③我が国の伝統と文化を基盤として国際社会を生きる日本人の育成

同法第2条(教育の目標)

教育振興基本計画の役割

教育の「不易」なるものを普遍的な使命としつつ、「流行」としての社会や時代の変化の中で、**我が国の教育という大きな船の羅針盤**

今後の教育政策に関する基本的な方針

今後の教育政策に関する基本的な方針

- ①日本型ウェルビーイングの向上・共生社会の実現に向けた教育の推進
- ②社会の持続的な発展を生み出す人材の育成
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

今後の教育政策に関する基本的な方針①

日本型ウェルビーイングの向上・共生社会の実現に向けた教育の推進

今後の教育政策に関する基本的な方針 ①日本型ウェルビーイングの向上

○教師のウェルビーイングの確保

職場の心理的安全性の確保と良好な労働環境にあることが、学びの土壌や環境を良い状態に保ち、学習者のウェルビーイング向上の基盤となり、家庭や地域のウェルビーイングにもつながる。

○地域コミュニティを基盤としたウェルビーイングの実現

生涯学習、社会教育を通して、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す学びによる共生社会の実現を目指す。

○一人一人の多様なウェルビーイングの実現

誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す学びを、学校をはじめとする教育機関の日常の教育活動に取り入れていく。

今後の教育政策に関する基本的な方針 ①共生社会の実現に向けた教育の推進

「多様性」、「包摂性」、「公平、公正」の考え方を重視し、自らとは異なる立場や地域にいる人々と接する機会や異なる環境に身を置く機会を持つことが重要。

- 障害の有無にかかわらず共に学ぶ「交流及び共同学習」
- 国内外において外国人児童生徒学生等との交流
- 異文化交流・国際理解教育の推進
- 地域で子供が交流・協働するキャリア教育・職業教育

今後の教育政策に関する基本的な方針 ①共生社会の実現に向けた教育の推進

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
- ICT を活用した一人一人の状況やニーズに応じたより良い教育環境の整備
- 様々な体験活動（自然体験活動、社会体験活動、文化芸術活動等）の充実
- 児童生徒等の心身の健やかな育成に向けた学校保健、食育、スポーツ活動、豊かな感性を育む読書活動の推進

○個人と地域・社会のウェルビーイングのつながり

子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくることで、学校にわる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一一人一人の子供や地域を支え、さらには世代を超えて循環していく。

- CS（コミュニティ・スクール）や地域学校協働活動の一体的な推進
- 家庭教育支援チームの活動を推進

学び手、学校、保護者・地域住民等の「三方よし」、それぞれのウェルビーイングが高まるよう三者一体の取組の推進

今後の教育政策に関する基本的な方針②

社会の持続的な発展を生み出す人材の育成

今後の教育政策に関する基本的な方針 ②社会の持続的な発展を生み出す人材の育成

「人への投資」を通じて社会の持続的な発展を生み出す人材を育成する。

○主体的社会参画意識の醸成と価値創造の志向

○グローバル人材育成、持続可能な社会の志向

- 地域・産学官連携、職業教育
- 多様な才能・能力を生かす教育
- 生涯にわたって学び続ける学習者の育成

今後の教育政策に関する基本的な方針③

地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に
向けた教育

今後の教育政策に関する基本的な方針 ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育

- 社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成
- 公民館等の社会教育施設の機能強化、社会教育人材の養成と活躍機会の拡充
- 生涯学習社会の実現、障害者の生涯学習の推進

今後の教育政策に関する基本的な方針④

教育デジタルトランスフォーメーション（DX）
の推進

今後の教育政策に関する基本的な方針 ④ 教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

【学校教育に求められるもの】

- 学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力の育成
- 教師の指導力向上・ICT 環境整備の更なる充実
- デジタル教科書・教材・学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進
- 校務DX を通じた、教育データの利活用、学校における働き方改革

今後の教育政策に関する基本的な方針 ④ 教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

【生涯学習で求められるもの】

- 遠隔・オンライン教育の活用による受講の利便性向上
- 学習履歴の可視化におけるデジタル技術の活用
- 公民館や図書館等の社会教育施設でのデジタル基盤強化やデジタル教育の充実

今後の教育政策に関する基本的な方針⑤

計画の実効性確保のための基盤整備・対話

今後の教育政策に関する基本的な方針 ⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

- 経済的状况によらず学びの機会を確保するための支援
- 指導体制・ICT 環境等の整備
- NPO・企業等多様な担い手との連携・協働
- 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備と
社会教育施設等の整備
- 児童生徒等の安全確保の推進

日の出町の学校教育・学校の現状

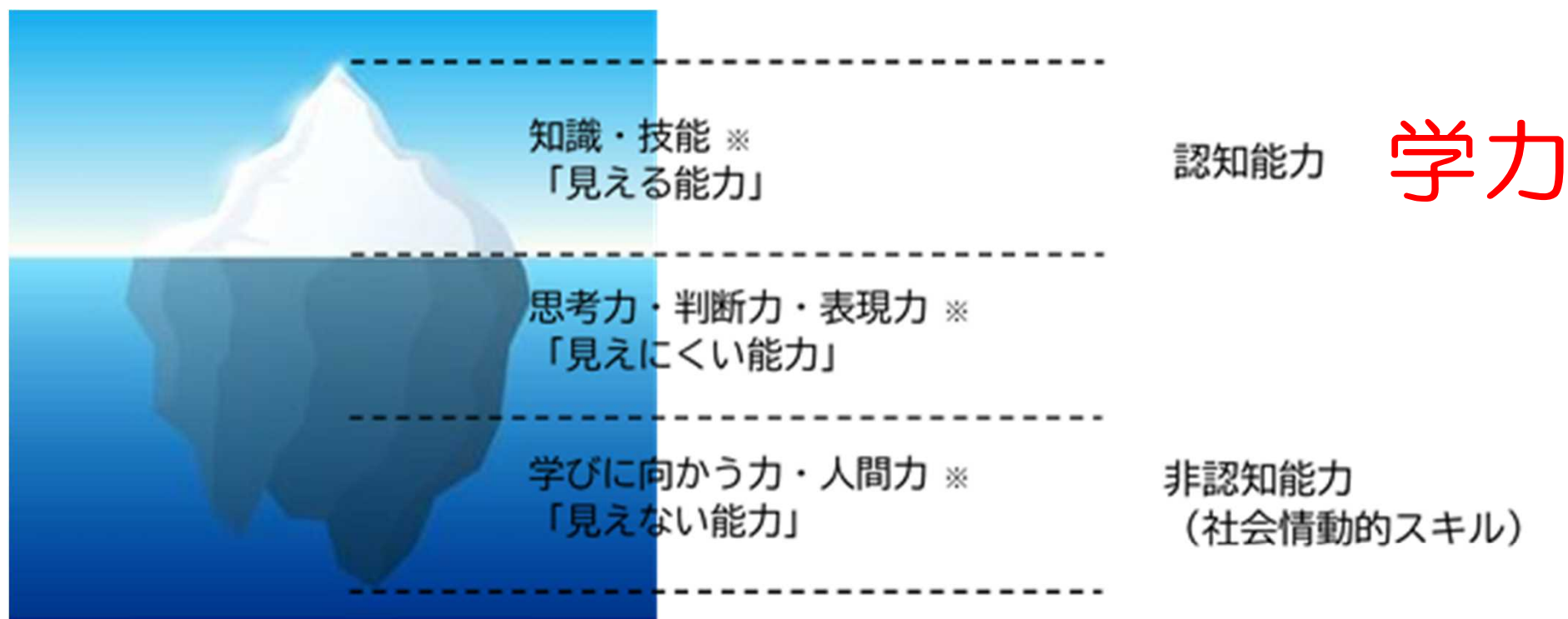


日の出町の児童・生徒の学力 ～学力向上策とGIGAスクール構想の進捗～

なぜ学力を身に付けるのか（教育の目的・義務教育の目標より）

- 人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成するため
- 各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うため

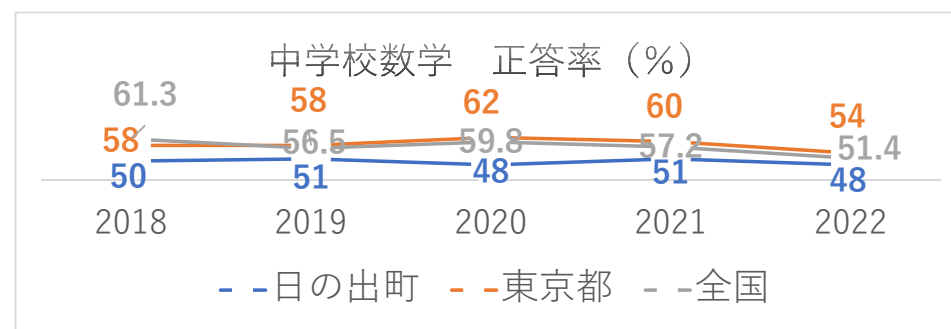
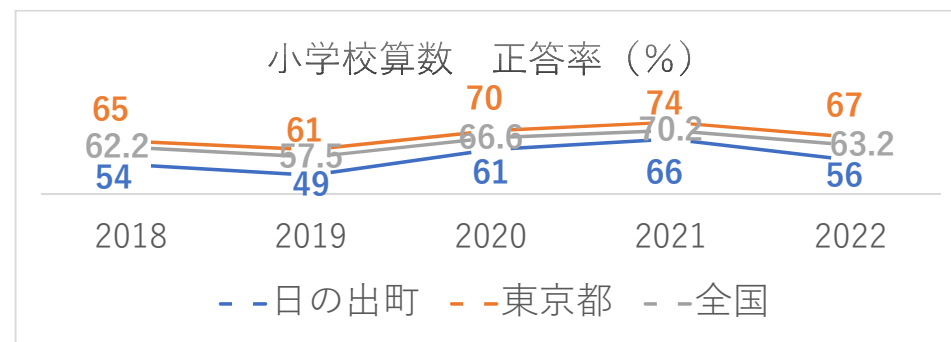
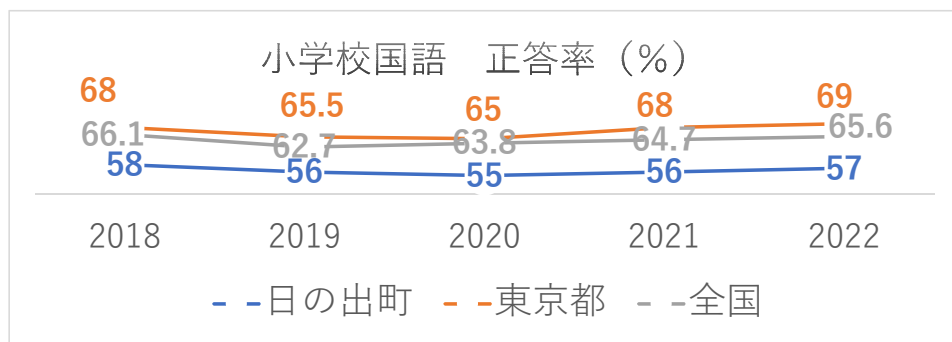
次代を担う児童・生徒に身に付けさせる能力



※「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間力」は、学習指導要領に示されている「新しい時代に必要となる資質・能力」

日の出町の子供たちの学力は（課題）

①認知スキルと捉えられる項目（全国学力・学習状況調査 経年変化から）



- ・ 小学校の平均正答率は、全国及び都平均値に対して低い傾向が続いている。
- ・ 中学校の平均正答率は、概ね全国平均値なみで、都の平均値に対して低い傾向が続いている。

日の出町の子供たちの学力は（課題）

①認知スキルと捉えられる項目（令和4年度全国学力・学習状況調査から）

課題が見られた内容

ア 小学校

国語：人物像や物語の全体像を具体的に想像して読むこと。

算数：日常生活の問題場面において数量関係に着目し、数量の関係及び答えについて式や言葉を用いて説明すること。

：図形を構成する要素に着目し、正しいプログラムを考えること。

理科：実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること。

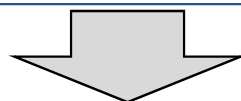
イ 中学校

国語：行書の特徴について理解すること。

数学：自然数を素数の積で表すこと。

：事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考察し、説明すること。

理科：物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明すること。



授業改善のキーワード

「知識（既習等）を活用して…」

「叙述に基づいて…」

「数量関係、要素、結果に着目して…」

説明すること

日の出町の子供たちの学力は（課題）

②非認知スキルと捉えられる項目（令和4年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査から）

（1）非認知スキルと捉えられる項目

小学校において、全国・都平均値よりも「自尊心」、「目標の達成」の項目が低い。

（2）学習環境に関する項目

小・中学校において、全国・都平均値よりもICT機器を使用した授業が少ない。

小学校において、全国・都平均値よりも家庭学習を全くしないと回答した児童の割合が高い。

（3）地域とのつながりに関する項目

小・中学校において、全国・都平均値よりも地域の行事に参加する児童・生徒の割合が高い。

どのように身に付けるのか（子供たちの学び）

- 「主体的・対話的で深い学び」を通して身に付ける。
- 「個別最適な学びと、協働的な学び」を通して身に付ける。
- 個人の進度や能力、関心に応じた学び」を通して身に付ける。

学力向上に関わる施策等

- 教員研修事業
- 研究指定校事業
- 支援教室・支援学級
- 適応支援教室
- 漢字検定事業
- ICT環境の整備
- ALT派遣事業
- オンラインブレインデッド

日の出町立学校の学力向上に向けた取組

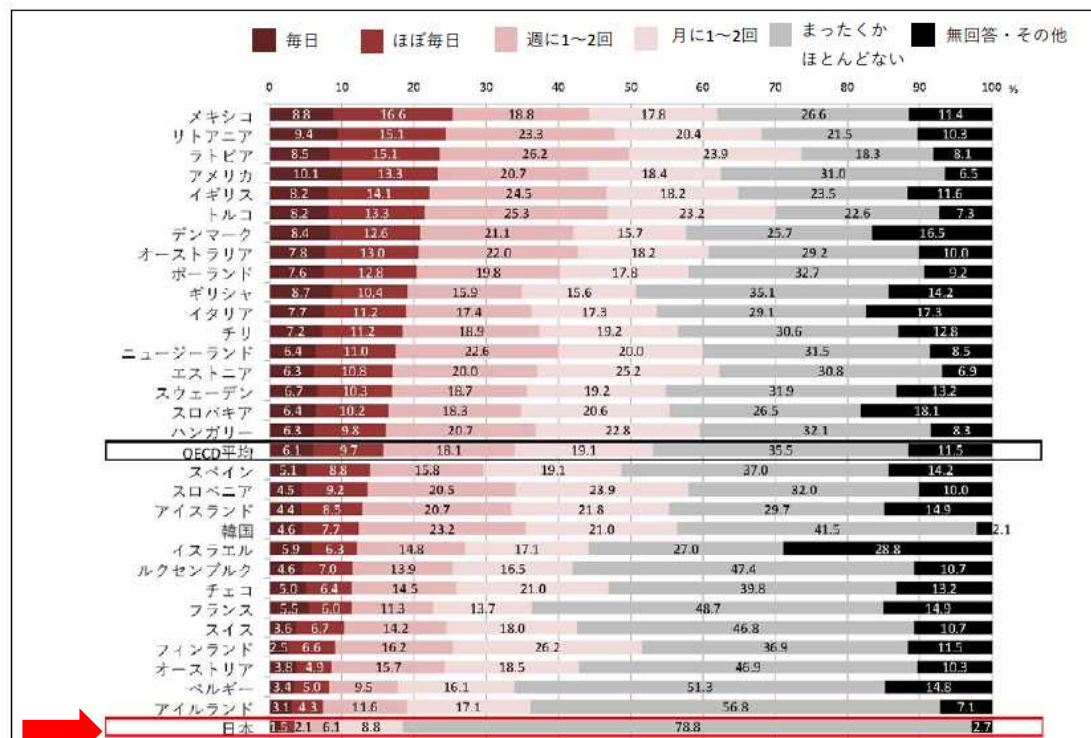
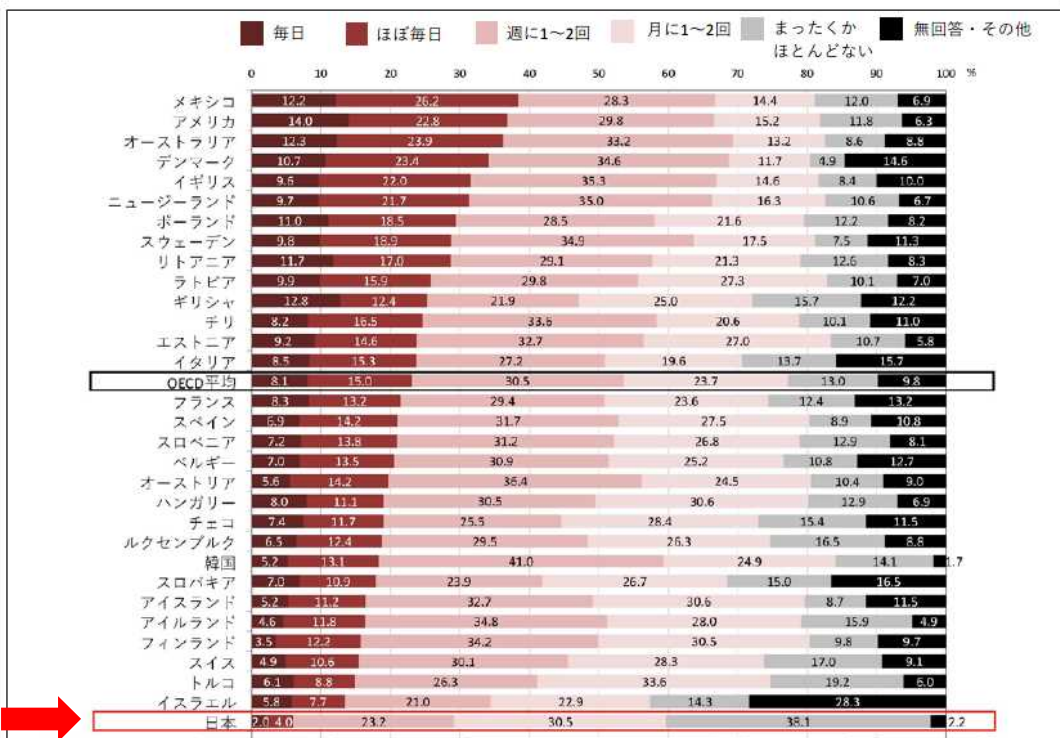
- OJTによる指導力の向上、授業改善を通じた学力の向上
(大久野小)
- 保護者との連携による学習習慣の定着を通じた学力の向上
(平井小)
- 主体的・対話的で深い学びを通じた学力の向上
(本宿小)
- ICTを活用した情報活用能力の育成
(大久野中)
- 学期中の補習教室、長期休業中の質問教室・自習教室による学力の向上
(平井中)

GIGAスクール構想の背景

日本の状況 ICT使用率はOECD加盟国最下位

図 37 (1) 学校の勉強のために、インターネット上のサイトを見る

図 47 (11) コンピュータを使って学習ソフトや学習サイトを利用する



(OECD生徒の学習到達度調査「PISA」補足資料2018から)

GIGAスクール構想が目指すもの

- 一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童・生徒の力を最大限に引き出す。

学びへの効果的活用

共有

たまたま一人1台
から

占有

常時一人1台へ

- 「すぐに」「どの教科でも」「誰でも」使える。
- 一人1台のタブレット端末を利用して、学びを深め、学びの本質に迫る。
- 一人1台のタブレット端末を利用して、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。

日の出町のICT環境の整備状況と課題

○ICT機器の整備

- デジタル指導書
- プロジェクター
- 大型液晶テレビ
- WEB会議用カメラ
- 学習用クラウドサービス・アプリケーション
- 児童生徒一人1台タブレット端末

○ネットワーク環境

- インターネット通信速度を200Mbpsから1Gbpsへ
- 各校への無線ネットワーク回線の整備（令和2年度）

○今後の課題

- 通信環境の改善

日の出町立学校の活用状況

音楽：作曲



生活：秋さがし



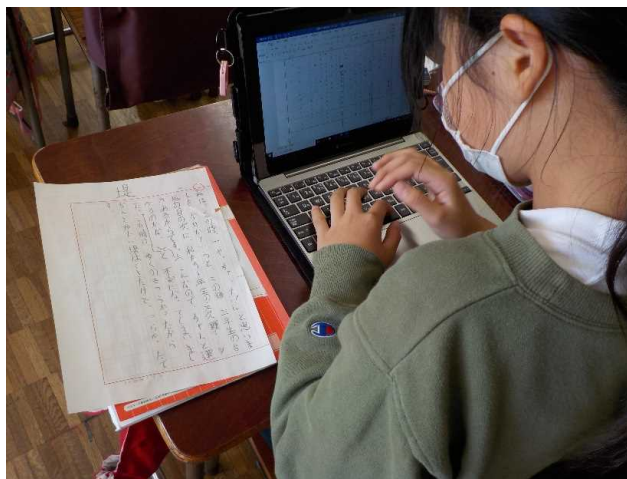
理科：実験の録画・考察



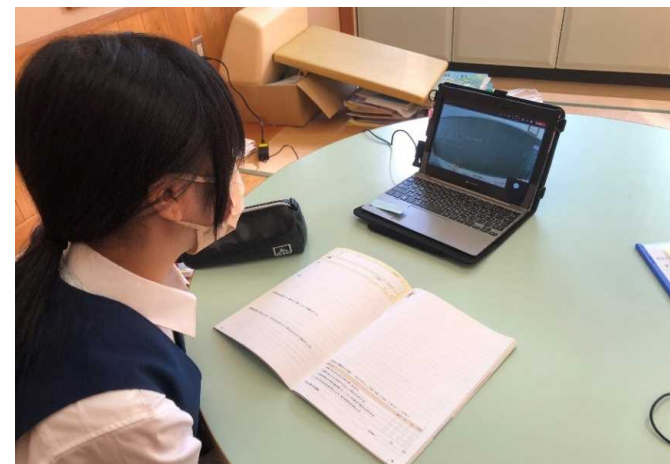
数学：グラフに基づく説明



国語：文章の校正



登校支援
別室オンライン学習



GIGAスクール構想の推進に向けた今後の方向性



- ICT環境のさらなる整備
- ICTの効果的活用による実践の積み重ね
- 情報モラル教育の推進と家庭への啓発

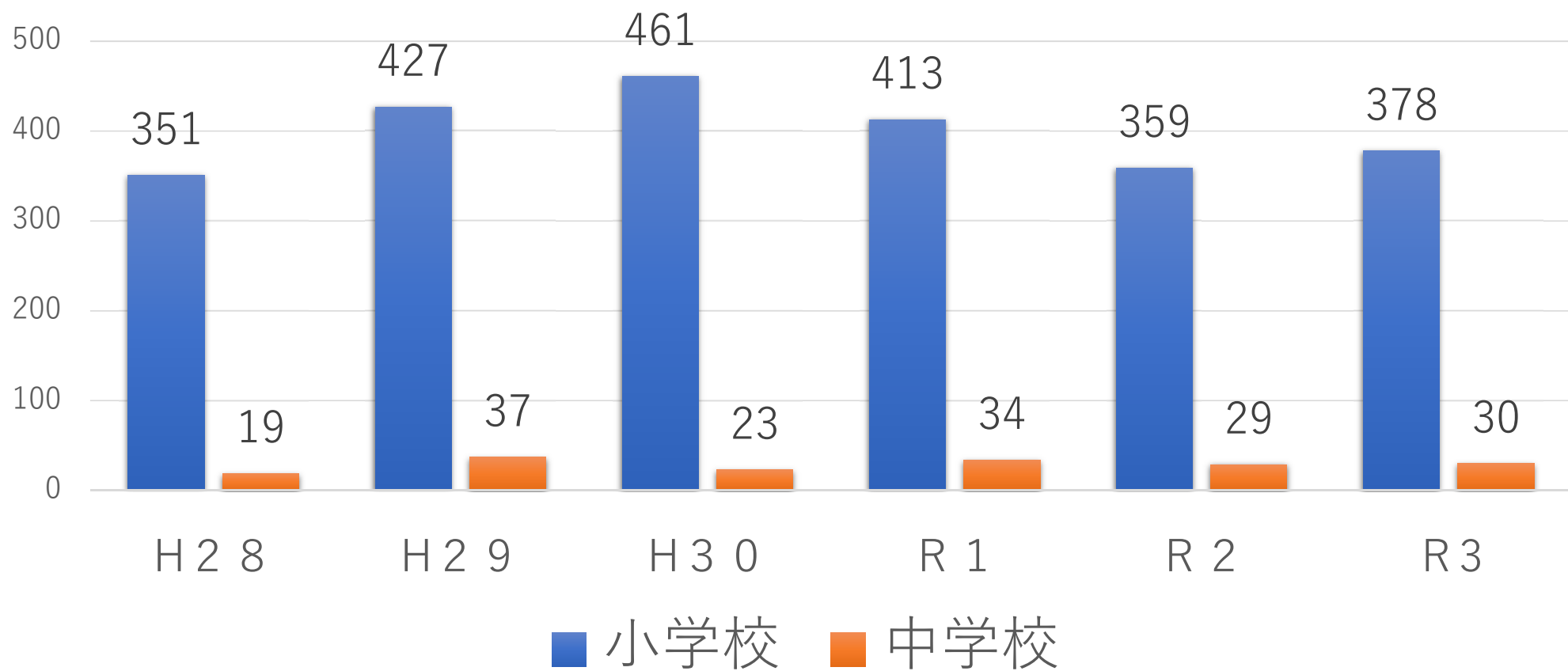
教師が変わる 学校が変わる 子供が変わる 一人1台端末の効果的な活用に向けて（令和2年東京都教育委員会）



日の出町のいじめ・不登校の状況と対応

いじめの状況

日の出町立小・中学校いじめ認知件数



いじめへの対応(学校では)

子供の様子
の変化への
気付き・通報

- ・教職員による日常の観察
- ・本人・保護者・児童・生徒からの訴え
- ・教育相談
- ・個人面談
- ・アンケート、生活ノートや日記

報告・連絡・相談

- ・情報を得た教職員
- ・担任・学年主任等
- ・生活指導主任
- ・管理職への報告
- ・※重大性の高いいじめは直ちに指導室に報告

情報集約、
全体像の把握、方針の
決定

- ・事実確認の方策協議
- ・教職員による役割分担
- ・事案の報告により、詳細を確認
- ・指導方針、指導体制の決定

いじめの解消に向けた
対応・指導

- ・被害の児童・生徒の安全確保と不安解消
- ・加害の児童・生徒に対する組織的・計画的な指導及び観察
- ・被害及び加害の児童・生徒の保護者の理解に基づく対応
- ・関係機関等との連携
- ・解消の確認

学校いじめ対策委員会

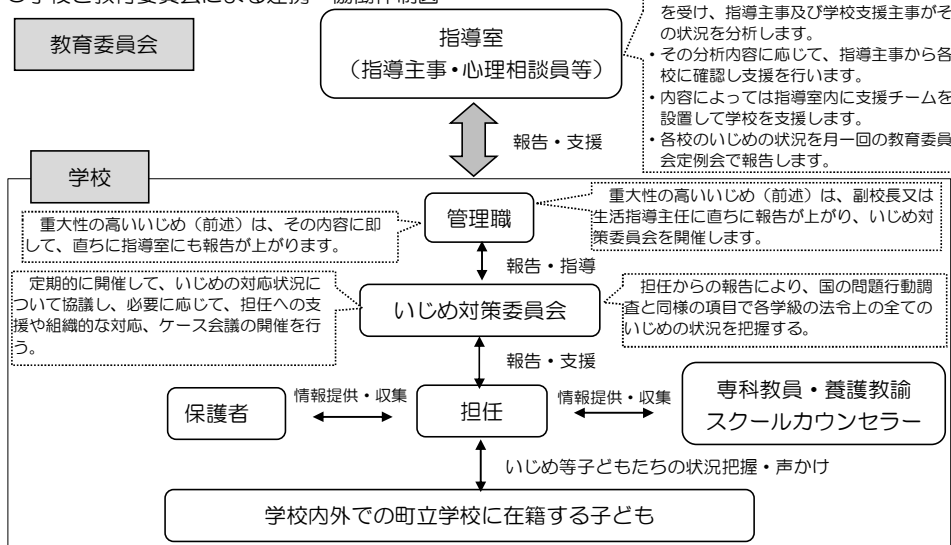
いじめへの対応(教育委員会では)

いじめ実態把握及び対応システム

—いじめ防止を強力に推進する日常的な連携・協働システムの構築—

- 都の「いじめ総合対策【第2次】」(平成29年2月)では、「いじめ防止等の対策を推進するためのポイント」に新たに、「軽微ないじめも見逃さない」が追加されました。
- 本町ではそれに先立ち、平成28年10月から、いじめ実態把握及び対応システムを導入しています。

○学校と教育委員会による連携・協働体制図



「いじめ実態把握及び対応システム」に基づく月ごとのいじめ報告

様式1 記入例 ☆☆☆ 様式1 入力チェックのポイント ☆☆☆

様式1 記入例

月	年	組	性別	件数
1	1	1	男	1
1	1	1	女	0
1	1	2	男	0
1	1	2	女	0
1	1	3	男	0
1	1	3	女	0
1	1	4	男	0
1	1	4	女	0
1	1	5	男	0
1	1	5	女	0
1	1	6	男	0
1	1	6	女	0
1	1	7	男	0
1	1	7	女	0
1	1	8	男	0
1	1	8	女	0
1	1	9	男	0
1	1	9	女	0
1	1	10	男	0
1	1	10	女	0
1	1	11	男	0
1	1	11	女	0
1	1	12	男	0
1	1	12	女	0

注: 性別を記入しない場合は、性別不明として記入する。

様式1 入力チェックのポイント

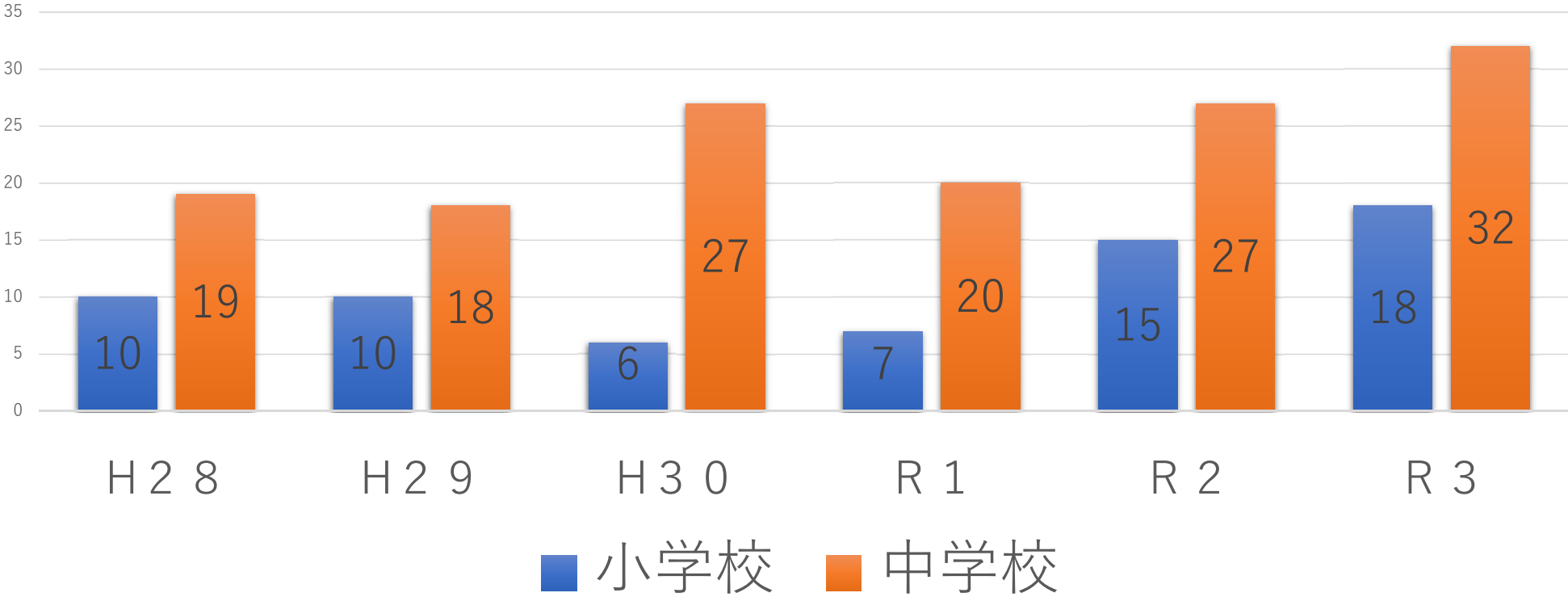
項目	入力内容	チェックポイント
1. いじめの発生のきっかけ	学校内外で発生した。	○
2. いじめられた児童生徒の相談状況	相談した。	○
3. いじめの態様	身体的な暴力。	○
4. いじめられた児童生徒への特別な対応	担任による指導。	○
5. いじめられた児童生徒への特別な対応 (保護者面)	保護者へ連絡した。	○
6. いじめられた児童生徒への特別な対応 (関係機関)	関係機関へ相談した。	○
7. いじめられた児童生徒への特別な対応 (支援)	支援を受けた。	○
8. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
9. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
10. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
11. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
12. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
13. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
14. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
15. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
16. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
17. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
18. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
19. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○
20. いじめられた児童生徒への特別な対応 (その他)	その他。	○

支援チーム (指導主事・心理相談員等)

- 毎月、各校からのいじめの報告に基づき、指導主事及び学校支援主事がその状況を分析する。また、その分析内容に応じて、指導主事から各校に確認し支援を行う。
- 内容によっては指導室内に支援チームを設置して学校を支援する。

不登校の状況

日の出町立小中学校不登校件数



不登校への対応・支援(学校では)

長期化への対応

長期欠席している
児童・生徒への支援

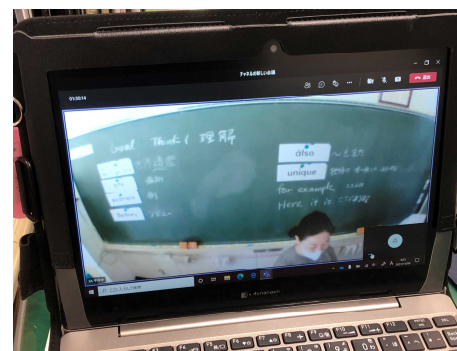
早期支援

休み始めた児童・生徒への支援

未然防止

全ての児童・生徒への支援

オンラインによる学習支援



不登校への支援(教育委員会では)

児童・生徒出席状況シート

児童・生徒出席状況シート

日の出町立 学校

年度 月分 記入者

※この色(ベージュ色)のセルについて入力ください。それ以外は「入力リスト」から反映され、自動的に表示されます。

【発達特性】以外の「欠席理由」
○:理由(要因)として明白
△:理由(要因)の可能性あり
未記入:現時点で不明または理由(要因)と考へていない

欠席状況

No.	学年・組	氏名	欠席状況				通級入級(別)	学校	支援機関			ケース会議	欠席理由
			前年度	前学期	今年度	今月			担任	養護	S		
1	0												
2	0	グレーの部分は記入不要です。											
3	0												
4	0												
5	0												
6	0												
7	0												
8	0												
9	0												
10	0												

当該年度の情報

当該年度で、一度でも対応した場合は○をつける。
※指導室でも記載内容を確認し、必要に応じて追記します。
翌月に本シートを作成する際、前月の記載内容を確認してください。

当該月の情報

当該月の主な欠席理由に○をつける。

【発達特性】以外の「欠席理由」
○:理由(要因)として明白
△:理由(要因)の可能性あり
未記入:現時点で不明または理由(要因)と考へていない

【主に関わり】
主にかかわっている支援機関に○をつける。(それ以外は未記入)

【支援機関】
関わりをもっていることを把握できている支援機関に○をつける。(それ以外は未記入)

【ケース会議】
校内 学校内で検討
支援チーム 学校と指導室登校支援チーム(相談室含む)で検討
他機関 教育委員会以外の他機関と検討

【発達特性】
○:発達障害の診断有
△:診断はないが、発達障害の可能性あり
未記入:現時点で不明、発達障害の可能性なし

欠席理由

発達特性	経済的	身体的	心理的	家庭	学校	その他

欠席理由

発達特性	経済的	身体的	心理的	家庭	学校	その他

欠席理由

発達特性	経済的	身体的	心理的	家庭	学校	その他

相談支援係における支援事業

活動場所
日の出町教育センターの多目的会議室や、教材開発室など

活動日時
毎週 月・火・金曜日 13:30~15:40 ※会議等により休みになることがあります

活動内容

Let's ではこんなことをしています

活動の内容

① Let's study(レッツ スタディ) (学習の時間)
自分のできることから、自分のペースで学習に取り組んでみよう。きつと自信がもてるよ。
みんながやってきたのはこんな学習

- ★「分かるところからやり直して、苦手意識をなくしたいなあ」
- ★「定期テストに向けて、すこし勉強してみようかな…」
- ★「高校受験に向けて、面接や作文の練習をしたい」 などなど

② Let's think(レッツ シンク) (考える時間)
自分も相手もいやな思いをしないで、人よくかかわる方法を一緒に考え、練習してみよう

- ★ コミュニケーション・エクササイズ
たとえば、「質問を工夫して答えを推理！」
「他の人とかならない？リシナルな答えを考へる！」
- ★ 進路や学校の話題、学校行事への参加の仕方をみんなで考へる
たとえば、「校外学習への参加の仕方を考へる！」
「自分に合った高校の条件を考へる！」 などなど

③ Let's enjoy(レッツ エンジョイ) (楽しむ時間)
みんなで協力して行事を企画し、楽しみながらやってみよう。

- ★ トランプやかるたなどで真剣勝負
- ★ タブレットを使って、リモートクイズ!

ある日のスケジュール

時間	時間割	内容
13:30	集合/ 始まりのホームルーム	始まりのあいさつ、今日の活動内容の確認など。
13:45	1時間目	主に「レッツ・スタディ(学習)」を行います。
14:25	トイレ休憩	
14:30	雑談タイム	休み時間とおしゃべりの時間です。
14:45	2時間目	「レッツ・スタディ」の他に「レッツ・シンク」や「レッツ・エンジョイ」を行います。
15:25	帰りのホームルーム	今日の活動のふりかえり、次回の予定の確認。
15:40	解散	より進まず、気をつけて帰ります。

登校支援チーム (指導主事・心理相談員等)

- 毎月、各校からのいじめの報告に基づき、指導主事及び相談支援係がその状況を分析する。また、その分析内容に応じて、指導主事から各校に確認し支援を行う。
- 内容によっては指導室内に支援チームを設置して学校を支援する。

ひのでまちきょういくそうだんしつ 日の出町教育相談室

子供の性格や行動、学校生活、子育て等に関する相談

042-597-1161

平日 9:00~12:00、13:00~17:00

(土日祝日・年末年始を除く)

ひのでまちきょういくいんかい
日の出町教育委員会



開かれた学校・地域の中の学校

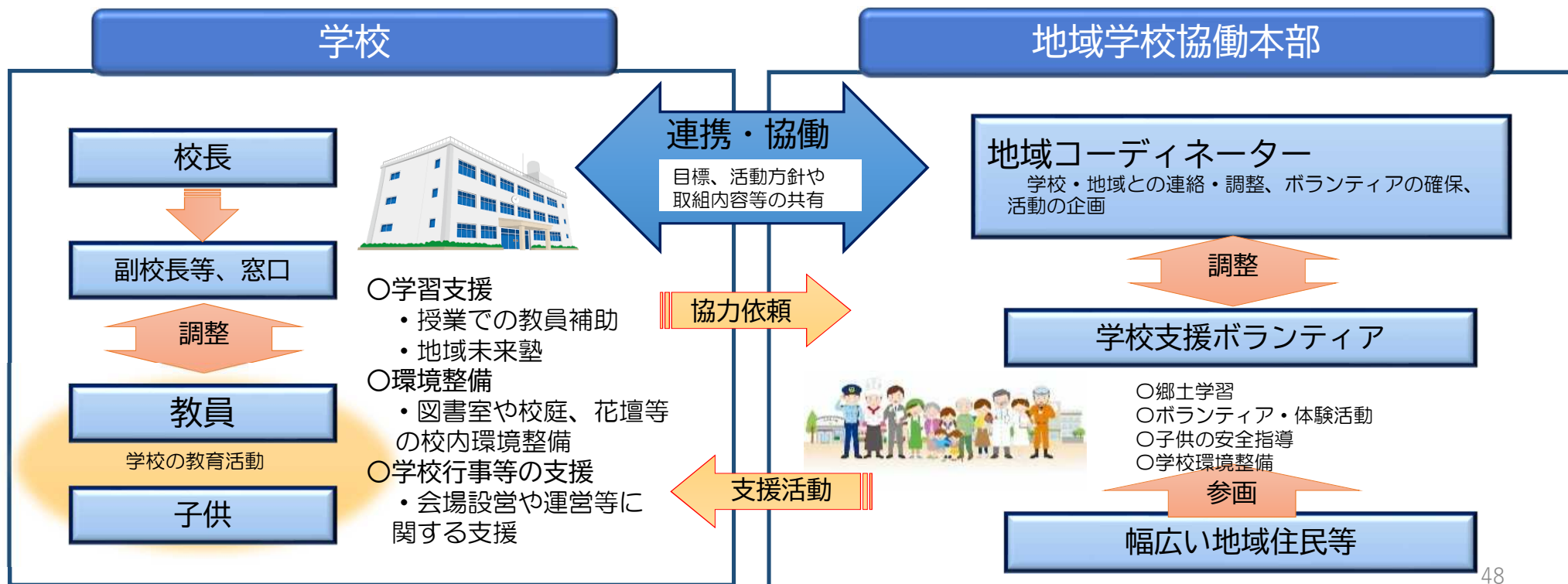
～学校・保護者・地域との連携協働による質の高い学校づくり～

地域学校協働活動 幅広い地域住民等の参加を 得るための仕組み

平成29年3月に社会教育法の改正により、「地域学校協働活動」が法律に位置付けられました。日の出町では、これまでに、幅広い地域住民等の参加を得ながら「学校を核とした地域づくり」を目指し、学校支援ボランティアにより学校支援活動を契機として、現在の地域学校協働活動に至り、学校と地域が共に学び共に支え合いながら共に質の高い学校づくりを進め、学校ごとに多様な取組が行われてきています。

緩やかなネットワークとしての「地域学校協働本部」

学校単位に設置され、地域の実情に応じて「〇〇学校支援本部」「〇〇学校応援団」など、様々に呼称されています。地域コーディネーターを要とした機能や学校支援ボランティアの組織を指します。

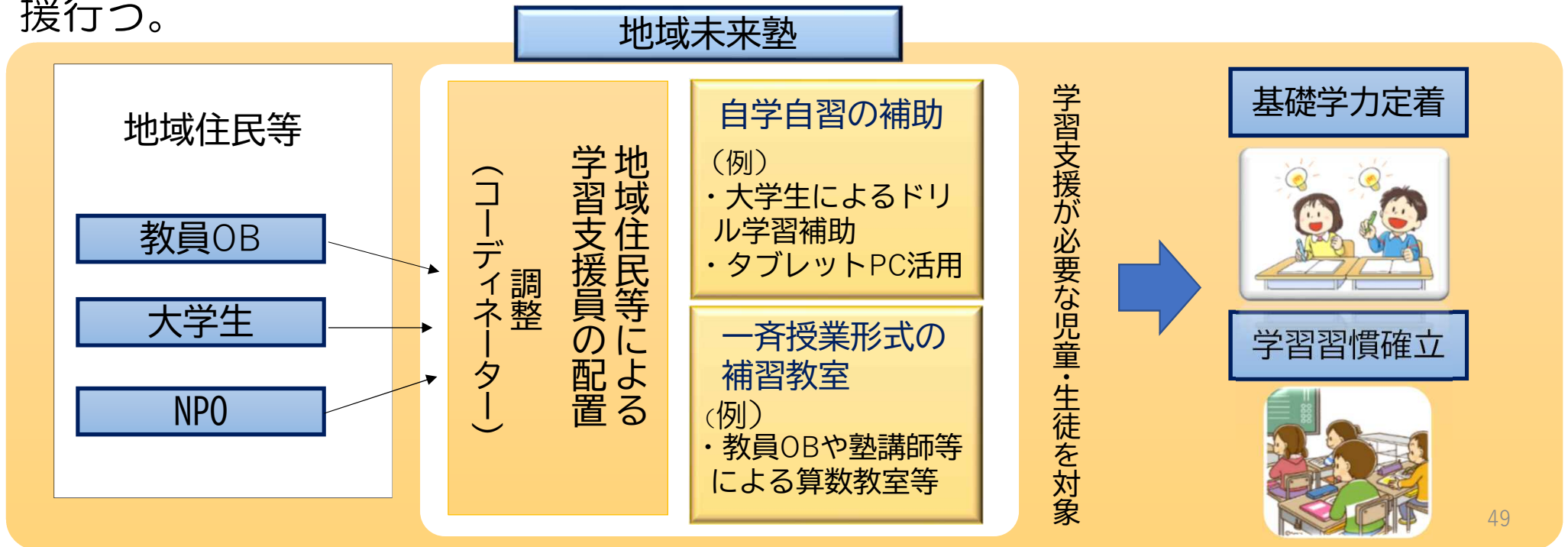


地域未来塾

地域人材の活用で学習支援を形に

地域未来塾

学習支援が必要な児童・生徒を対象に、「学習習慣の確立」「基礎学力の定着」を目指し、大学生や教員OB、NPOなど、地域住民の協力により学習支援を行う。



これからの日の出町の学校

～次期教育振興基本計画の審議経過と日の出町の現状を踏まえて～

- すべての子供たちによりよい人生を拓く基盤をはぐくむ学校教育
- 共に学び、支え合い、みんなで創る日の出町の教育
- まちの魅力が学校を育てる 学校づくりはまちづくり
- 多様性をエネルギーに変える学校

学校は今のまま変わらず、硬直したシステムを維持したままでは・・・



1 将来、学校は生き残れるのか？揺らぐ学校の存在意義

- 教育機会確保法、コロナ禍の一斉休校、GIGAスクール構想等による学校の存在価値の揺らぎ
- 今や子供たちを学校に集めなくても、子供の学習を保障することが可能な時代に突入
- 企業立学校やフリースクール、企業や民間のオンライン学習等と公立学校が混在
- 誰もが、いつでも、どこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会の到来
- 学校でなければ学べないこと、学校の存在意義は・・・



すべての子供たちに
よりよい人生を拓く基盤を
はぐくむ学校教育



2 学校と地域の関係 ～地域社会という「海」に浮かぶ、学校という「船」～

- 「将来、地域社会は存在するのか？」「人はいるけど、地域社会は機能しているのか？」
- 海が枯れたら、船は浮かばない。
- 学校は、教職員、児童・生徒だけでつくるものでなく、地域と共につくるもの
- 学校の未来を考えることは、併せて地域社会の未来、再構築するための施策を考えること



まちの魅力が学校を育てる 学校づくりはまちづくり



4 学びの意義と学校教育

～ 「なぜ、人は学ぶのか？」 「そもそも、なぜ、子供は学校で学ぶのか？」 ～

一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の
幸せである「Well-being（ウェルビーイング）」の
実現

次期教育振興基本計画策定に関する文部科学大臣から中央教育審議会への諮問内容より



4 「なぜ、人は学ぶのか？」「そもそも、なぜ、子供は学校で学ぶのか？」

○子供たちの今のしあわせ、将来のしあわせの基盤づくり

※かかわりを大切にし、地域・社会・自然とともに生き、夢に向かい 志をもって、自らの道を拓く

○他者、社会のしあわせをもつくる ⇒ 人類が未だ解決できないでいる大命題を教育の力で解決

※争いや分断、貧困や飢餓、差別や偏見がない世の中となる日を迎えるために学ぶ

○人にやさしく

住みよいまちの学校教育



共に学び、支え合い、 みんなで作る日の出町の教育



5 学校のシステムは「組織」から「チーム」へ

○教員の忙しさは極限に達し、従来型の学校の在り方には限界がきている。

※学校システムの多様化 ⇒ チーム学校

⇒ 「同質管理」から「異質管理」への転換

○これからの時代に求められるリーダー像

多様化を取込める土壌づくりと

それを耕すことができる人



多様性をエネルギーに変える学校



shutterstock.com · 166978565

これからの日の出町の学校教育、学校づくりの方向性

- すべての子供たちに
よりよい人生を拓く基盤をはぐくむ学校教育
- 共に学び、支え合い、
みんなで創る日の出町の教育
- まちの魅力が学校を育てる
学校づくりはまちづくり
- 多様性をエネルギーに変える学校づくり

先を見て、今を固める。
今を見て、先を考える。

学校の教育力の限界を
子供の学びや成長の限界にしない。

2022 Comprehensive education conference

A future of Hinode Town School education

THE END